

教科等における 生き方探究教育の実践

京都市総合教育センター
研究課

目次

はじめに	1
第一部 授業に取り入れたい学習活動・授業展開の工夫事例	2
生き方探究教育で育てたい「4つの力」と授業に取り入れたい 「学習活動・授業展開の工夫」との関連表(例)	3
「人とともに社会を生きる力(人間関係形成・社会形成能力)」を育てる 学習活動例・授業展開の工夫	4
「自分を知り，律する力(自己理解・自己管理能力)」を育てる 学習活動例・授業展開の工夫	8
「課題を見つけ，解決する力(課題対応能力)」を育てる 学習活動例・授業展開の工夫	12
「夢や希望をつくり上げる力(キャリアプランニング能力)」を育てる 学習活動例・授業展開の工夫	16
学習モデルの様式	20
第二部 学習モデル(指導計画案・学習指導案)集 国語科編	24
第三部 学習モデル(指導計画案・学習指導案)集 算数科編	72
第四部 学習モデル(指導計画案・学習指導案)集 理科編	106

はじめに

生き方探究教育（キャリア教育）が本市で実施されるようになってから、5年目を迎えています。しかし、教科における実践が進んでいないという指摘があります。

「この教育は、全ての教育活動で行われる」というこの教育の趣旨からすると、教科でも、生き方探究教育を実践していくことが求められています。以下に示した学習指導要領の文言からも、この教育の視点で教科学習をとらえなおしていくことが求められていることがわかります。

<p><見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視>（第1章第4の2(4)）</p> <p>各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。</p>	
<p><課題選択や自己の生き方を考える機会の充実（第1章第4の2(5)）></p> <p>各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること。</p>	
<p>※ 引用 「学習指導要 総則」 p.16</p>	

「生き方探究教育を教科で実践する」とはどういうことなのでしょうか。筆者はそれを、「生き方探究教育で育てたい力を、教科の中でどのように育むのか」ということを考え、実践することであると考えました。本市教育委員会は、平成24年2月に、生き方探究教育で育てたい力として、以下に示した「4つの力」を提示しました。

共生と自立	<p>人とともに社会を生きる力 (人間関係形成・社会形成能力)</p>	<p>多様な他者の考えや立場を理解し自分の考えを正確に伝える力 (人間関係形成能力)</p> <p>他者と協力・協働して社会参画し、今後の社会を形成していく力 (社会形成能力)</p>
	<p>自分を知り、律する力 (自己理解・自己管理能力)</p>	<p>自分のしたいこと、出来ることを理解し可能性を信じて行動する力 (自己理解能力)</p> <p>自分の思考や感情をコントロールし、向上しようとする力 (自己管理能力)</p>
	<p>課題を見つけ、解決する力 (課題対応能力)</p>	<p>身の回りや社会的事象から様々な課題意識をもつ力 (課題発見能力)</p> <p>課題を分析し、適切な計画を立てて、その課題を処理し解決する力 (課題解決能力)</p>
	<p>夢や希望をつくりあげる力 (キャリアプランニング能力)</p>	<p>「学ぶ・働くこと」の意義を理解し、自分の立場や役割の関連を認識する力 (役割認識能力)</p> <p>多様な生き方に関する様々な情報を活用し、主体的に判断し、生きていく力 (将来設計能力)</p>

本冊子では、授業に取り入れたい「生き方探究教育の視点を踏まえた学習活動・授業展開の工夫」を考案しました。これらは、研究協力校における実践授業の中で検証を重ね、児童の授業の様子や成果物、振り返りの記述などから、上の4つの力の基礎を培う上で特に効果的であると判断したものです。また、これらは教科での実践を通して「4つの力」の基礎を培うことができるだけでなく、学習意欲の高まりや学習理解の深まりにも効果的に働くことを実感することができたものです。

ここに示された学習活動・授業展開の工夫は、特に目新しいわけではなく、大がかりな取組ではありません。しかし、冊子の中に示した「指導のポイント」を留意して授業に取り入れることで、生き方探究教育の視点が明確になっているものです。

尚、巻末には、実践授業を行う際に作成した、「教科学習のモデル例（指導計画案・学習指導案）」を提示します。指導計画案・学習指導案の作成例として、また、実際の授業に、この冊子に示した学習活動・授業展開例を導入するののかという実践事例として御活用ください。

今後、多くの学校、学級の様々な教育活動でこの教育が実践され、更に取組が充実していくことを強く願っています。そのための一つの足がかりとして、この冊子が少しでも役立てていただけたらと考えています。

第一部 学習活動・授業展開の工夫例

授業に取り入れたい「学習活動・授業展開の工夫」(例)

育てたい力	☆学習活動 ◆授業展開の工夫	取り入れる際の留意点	授業後の振り返りの記述や感想で、児童にもってほしい思いや気付き(例)
人間関係形成・社会形成能力 人とともに社会を生きる力	☆話し合い活動 (ペア) (グループ) (クラス)	○人との関わりの中で、新たな考えにふれたり、考えを深めたり、課題を解決できたり、がんばれたりすることを経験するように留意する。	・ペアで話し合っているいろいろな考え方が出た。 ・〇〇さんの考えを聞いて考えが変わった(〜に気付いた)。 ・みんなの考えを聞いていて、自分と違う考えや似ている考えがあった。
	☆役割分担を伴ったグループ活動	○グループで協力することの素晴らしさ、楽しさに気付くようにする。	・自分は〜の役割だった。緊張したけど、〜できた。 ・グループで協力して〜することができたのでうれしかった。
	☆インタビュー活動 ☆ゲストティーチャーと交流する活動	○教室外の人の関わりの中で、自分の社会的な立場や役割、将来像などについて考えるようにする。	・〇〇さんがどういう思いで働いているのかが分かった。 ・発表を見に来て下さる〇〇さんにほめてもらえるように、練習をがんばった。 ・地域の〇〇さんの話を聞いて、今まで気付かなかったことに気付けたのでよかった。
	◆憧れる人や身近な人の生き方や考え方にふれるようにする展開の工夫	○内容が偏らないように配慮しながら、様々な立場の人の生き方を紹介する。	・〇〇さんの生き方にとても共感した。〜という生き方はすごいと思う。これからは〜したい。 ・〇〇(偉人の名)のように、〜できる人になりたい。
	◆成果物や思いを、教室外の人に発信する展開の工夫	○だれに成果を発信したいか、自分たちの思いをもつようにする。 ○発信する人への相手意識をもって、成果物の内容や発表方法を工夫させる。	・〇年生も読めるように、〜を工夫した。 ・〇〇さんによく伝わるように、〜するようにしたい。
自己理解・自己管理能力 自分を知り、律する力	☆自己目標を立て、それに対して振り返る活動	○自己を客観的にとらえることの大切さに気付くようにする。	・今日は「〜」という目標だったけど、できなかったので〜をがんばる。
	☆成長や困りを振り返る活動	○できたこと、できなかったことを的確にとらえるように具体的に記述させる。	・めあて通り、〜をがんばれた。 ・〇ページの③の問題が難しかった。だから、〜したい。
	☆自己を知ったり紹介したりする活動	○相談活動を取り入れ、他者から見た自分の行動や姿をとらえるようにする。	・自分が好きなことや嫌いなこと、今がんばっていることなどを振り返って話せたのでよかった。 ・〇〇さんに、自分のよいところを言ってもらえてすごくうれしかったし、自分の〜に気付くことができた。
	◆社会や自然、集団に属している自分を客観的にとらえるようにする展開の工夫	○自分を客観視することの重要性を伝える。	・自分がたくさんの人に支えられながら生きていることがよくわかった。 ・自分は〜の一部なんだと感じた。
	◆感想や思いを様々な場面で交流し、表現する展開の工夫	○よい感想をクラス全体で紹介するなどして、感想をもつ観点を提示する。	・感想文を書いていたら、自分がどんなことを考えていたのかがよくわかってよかった。
課題を見つつけ、解決する力 (課題対応能力)	☆様々な情報を集めて活用する活動 (ICT機器の活用) (ウェビングマップの作成) (情報収集のための活動)	○集めた情報を、課題解決や次の取組に生かすよう心がける。 ○情報同士のつながりに気付くようにする。	・他の人がどのようなことを考えているかがよくわかった。 ・クラスのみんなが出したそれぞれの意見が、実はつながり合っていることがよくわかった。 ・自分が知りたいことは、〇〇さんにインタビューしたらいいと思う。
	◆既習事項を想起し、課題解決に活用する展開の工夫	○既存の知識や既習内容が、本時の課題解決に生かせることの面白さや喜びに気付くようにする。	・前の単元で学習した〇〇の方法を使って〜したい。 ・前の時間に、〇〇さんがやっていた方法で問題を解いた。 ・〜するときは、〜の方法(考え方)が使えらと思った。
	◆課題と実生活との関連を考える展開の工夫	○今している学習が、実生活、実社会に役立っていることを実感するように留意する。	・今日学習した〜の解き方は、家で〜するときに使えると思う。 ・〜は生活の中で、〜するときに便利だということがわかった。 ・〜は、身近なところにたくさん使われていることがわかった。他にも使われていることがないか、調べてみたい。
	◆自分のこととして課題をとらえるようにする展開の工夫	○様々な立場に立って、物事を考えるようにする。 ○様々な課題を、自分に深く関係していることとしてとらえるようにする。	・〇〇問題のことなんて、今まで真剣に考えたことがなかったけど、身近な問題だということがよくわかった。 ・〇〇さんが困っていることは、自分にもあることだと思うから、真剣に考えたいと思った。
	☆学習計画を立てる活動(課題に対して計画的に取り組む活動)	○先を見通して、主体的に学ぶことの大切さを伝える。	・学習計画に沿って学習が進んでいくと、次に何をやるのかがわかるのでよかった。 ・発表まであと〇時間しかないから、今日には、〜したい。
夢や希望をつくりあげる力 (キャリアプランニング能力)	☆自分の将来像や生き方、将来就きたい仕事について考える活動	○どのような自分(社会人)になりたいかということを普段から考えるようにする。	・私は中学校で〇〇部をがんばりたいから、今から〜をがんばってできるようになりたい。
	◆その時間の学習目標を提示する展開の工夫	○その時間の学習目標を意識しながら学習に向かうようにする。	・今日の目標は、〜だったけど、まだうまくできないので、休み時間などに練習したい。
	◆制限時間を意識する展開の工夫	○時間感覚を身に付けるようにする。	・時間までにはできなかった。次は間に合うように〜に気を付けたい。
	◆時間軸上で変化していく自己を意識する展開の工夫	○ポートフォリオ、ノート、ワークシートなどを活用し、児童の変容をとらえやすいような工夫をする。	・1年生のときには〜だったけど、今はできるようになったからすごくうれしい。
	◆学習内容と仕事や将来とのつながりを知ったり考えたりする展開の工夫	○今の努力の積み重ねが、自分の成長や将来像とつながっていることに気付くようにする。	・この単元に入ったころと比べて、自分は成長したと思う。 ・〜の勉強もとても難しいけど、〜できるようにすると社会に出たときに役立つと思うのでがんばりたい。 ・〜するのに、何度も話し合ったり、〜したことは、将来仕事をしていくときでも大切なことだと思った。

人とともに社会を生きる力(人間関係形成能力・社会形成能力)
を育てる学習活動・授業展開の工夫



授業に取り入れる際の指導のポイント (留意点)

- 人との関わりの中で、新たな考えに触れたり、考えを深めたり、課題を解決できたり、がんばれたりすることを経験できるようにする。
- グループで協力することの素晴らしさ、楽しさに気付くようにする。
- 教室外の人との関わりの中で、自分の社会的な立場や役割、将来像などについて考えるようにする。
- 内容が偏らないように配慮しながら、様々な立場の人の生き方を紹介する。
- だれに成果を発信したいか、自分たちの思いをもつようにする。
- 発信する人への相手意識をもって、成果物の内容や発表方法を工夫させる。
- 自分を客観視することの重要性を伝える。

話し合い活動Ⅰ

ペア・グループでの話し合い活動を取り入れる

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き（例）
<p>「自分の考えを隣の人に説明しましょう。」 というような指示を出し、様々な考え方を交流できる活動を頻繁に取り入れましょう。「隣の人」「前後の人」というように、ペアを変えることで形態のバリエーションが増えます。</p> <p>「よろしくお願いします。」「説明を始めていいですか。」「どうぞ。・・・」というように、学級の実態に合わせて話型を提示する工夫も大切です。生き方探究教育の視点から、「お隣の人と机を合わせて学習していることの意義」や「二人で力を合わせることで、新しい考え方が生まれたり課題を解決できたりすることの素晴らしさ」に気付くように、継続して声かけをしていくことが大切です。</p> <p>また、グループでの話し合いは、考えを広げたり、一つの課題を多角的にとらえたりする際に有効です。生き方探究教育の視点から、「様々な意見が出てくることの素晴らしさ」に気付くような声かけをするようにしましょう。ただし、ペアの話し合いとは違って、一人一人が自分の考えをもっていない場合でも、話し合いがどんどん進んでしまうことがあります。話し合いの前後に、一人一人が自分の考えを記述するなどの工夫が大切となります。</p>		<p>隣の人に教えてもらってとてもわかりやすかったです。</p> <p>隣の人に自分の文を聞いてもらったから、漢字のふりがなを付けた方がいいと言われてもらったのでそうしました。</p> <p>隣の人の考え方を聞いて、なるほどなあと思ったので、次はそのやり方でやってみたいです。</p> <p>自分の考えを〇〇さんに聞いてもらっていたので、自信をもって話すことができました。</p> <p>グループで話し合うといろいろな意見が出て、自分と同じ考えもあったので驚きました。</p> <p>みんなで一つのものを作り出している感じがとても楽しかったのでまたやりたいです。</p> <p>〇〇さんがとてもわかりやすい意見を出してくれたので、その考え方でできるようになりました。</p> <p>グループで話し合っていると、いろいろな意見が出されて自分の考えが広がるのでいいと思います。</p>

話し合い活動Ⅱ

クラスでの話し合い活動を取り入れる

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き（例）
<p>学級での話し合いで一人の考えを全体に広げる場合は、生き方探究教育の視点から、発表者と聞き手の双方から互いの意見が出て、考えが練り上がっていくように話し合いをコーディネートしていくことが大切です。</p> <p>発表者には、生き方探究教育の視点から、聞き手を意識した発表を心がけるように伝えましょう。「顔を上げて発表する」「説明箇所を指し示しながら発表する」「具体例を出して説明する」など、児童の実態に合わせて発表の仕方（ルール）や、話型を提示することは有効な支援となります。</p> <p>聞き手は、自分の考えと発表者の考えを比べながら聞くようにうながしましょう。ハンドサインを活用すると、聞き手の意識が目に見える形で示されるので有効な取組となります。疑問</p>		<p>〇〇さんの説明はとてもわかりやすかったです。私も〇〇さんのように発表できるように、自分の考えをもてるようになりたいと思いました。</p> <p>自分が考えた方法よりも、〇〇さんの考えたやり方がわかりやすかったので、次はそのやり方でしてみようと思います。</p> <p>〇〇さんの意見を聞いて、なるほどなあと思いました。自分は～という考え方だったけど、～に変わりました。</p> <p>みんなの意見を聞いていて、自分の考えが広がりました。</p> <p>僕が今まで気付かなかったことに気付いている人がいて、すごいと思いました。</p>

に感じたことを発表しやすいような、学級の雰囲気をつくる声かけも重要です。

また、相手を自由に変えて、自分が作成したものを読んでもらったり見てもらえたりするような交流も、有意義な取組となります。大切なことは、「友だちがいるおかげで、自分はよりよく成長することができる。」ということに気づき、集団で学習する意義を、一人一人の児童が実感できていることです。



〇〇さんの感想文は、自分の気持ちが素直に書かれていてよかったです。

習っている漢字をひらがなで書いているところがあるので、直した方がいいと思います。

〇〇さんの考え方がわかって勉強になりました。自分も～をがんばってみたいです。

地域の人との交流

地域の人、関わりのある人にインタビューする活動を取り入れる

指導のポイント	実践の様子	児童の気づき (例)
<p>教室の友だちだけでなく、教室外の人や面識のない人とも友好的人間関係を築けることは、社会的自立のために欠かせません。</p> <p>間接的に自分と関わっている人や、社会を構成している人とのつながりに気付くためにも、地域の人へのインタビュー活動を通して、その方の思いや願いを知るように授業展開を工夫することが大切です。単元の内容に合わせて、積極的に地域の人と関わり、インタビュー活動を行いましょう。</p> <p>インタビュー活動で地域に出ることが難しい実態がある場合は、担任以外の教職員や保護者、他学年の児童などに依頼するというアイデアも考えられます。</p> <p>また、地域の人と交流して思いや願いを知る活動は、児童の社会形成能力の基礎を培うことにもなります。「自分は、社会を構成している一員である。」という自覚をもてるように、よい気づきがあれば、それを回りの児童にも広めていくように指導を工夫しましょう。</p>		<p>〇〇さんにインタビューをして、僕たちのために、いろいろ考えてくださっていることがわかりました。僕も大きくなったら～みたいです。</p> <p>地域の方は、いつも～という思いで僕たちを見守ってくれているということがわかりました。</p> <p>働いている人の話を聞いて、〇〇さんは、かげでこんな工夫をしているんだなと気付くことができました。インタビューをしてみて、～ということを知りました。</p> <p>いつも近くで遊んでいるのに、こんなところに、〇〇屋さんがあるなんて知りませんでした。今度、行ってみたいです。</p> <p>はじめは緊張したけど、とても優しく答えてくださったのでうれしかったです。またやりたいです。</p>

教室外の人との関わり

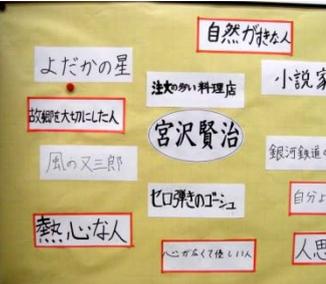
ゲストティーチャーを招く授業展開の工夫

指導のポイント	実践の様子
<p>新しい人との出会いは、児童に適度な緊張感をもたせるとともに、様々な学びや気づきをもたらします。</p> <p>高い頻度で教室外の人に協力を仰ぐ場合は、学校体制としてゲストティーチャーの人材を確保しておくことが重要となります。また、出張授業をしてくれる団体や企業、公共施設にお願いすることも考えられます。</p> <p>指導者の意識一つで、様々な取組が可能となります。「様々な人との関わりの中で、子どもを育てる」という思いをもって、多くの貴重な出会いをコーディネートしていきましょう。</p>	<p>〇〇さんに来てもらって話を聞いたのがうれしかったです。〇〇さんが言ってくれたことを、がんばってやってみようと思いました。</p> <p>〇〇先生にお願いされたことを、がんばってやりたいと思います。</p> <p>(ゲストティーチャーの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の見守り隊、女性会、体育振興会など、日ごろから学校に関わりのある方々 ・ PTA ・ 保護者 ・ 校内の教職員 ・ 出張授業をしてくれる団体職員や企業の社員 ・ 警察署、消防署などの公共施設で働く職員

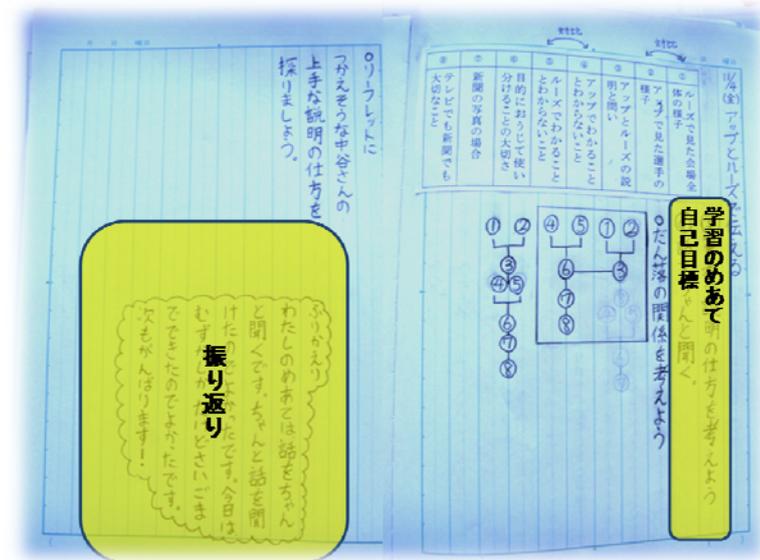
学習の成果物(作品)の発信 教室の外へ発信するように授業展開を工夫する

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き(例)
<p>新聞やリーフレット、パンフレットなどの成果物を授業で作成した場合、教室の中で発表会をすることが多いと思います。そのようなときは、教室以外の人へ発信するように授業展開を工夫しましょう。発信先を教室の外の人に設定することで、活動に緊張感が生まれ、発信相手を意識した取組が可能となります。</p> <p>「自分たちは、何を発信したいのか。」「わかりやすい発表とは、どのような発表だろうか。」「どのような工夫をすれば、〇〇の人たちにうまく伝わるだろうか。」ということを見童に考えさせることで、学習理解の深まりや主体性の高まりが望めます。</p> <p>インタビュー活動と同じように、学校の外から協力を得ることが難しい実態があれば、校内の教職員や他学年の見童、保護者などに協力を得るという方法が有効です。全校集会の場、参観日、学校行事、学級行事などを利用して、展示や発表会を見童に企画させてみましょう。</p> <p>「他の教室へ出張して聞いてもらう」「校長先生を教室へお招きして発表を聞いてもらう」など発信先や機会を工夫することで、様々な取組が可能となります。</p>	 	<p>〇〇先生が教室に来てくれるので、がんばって練習したいと思います。〇〇先生に伝わるように、しっかり大きな声で話すようにします。</p> <p>1年生でもわかりやすいように、漢字にはふりがなを打とうと思います。読みたくなるように、絵を描いたり色を塗ったりして工夫したいです。</p> <p>たくさんの人に読んでもらうために、ポスターを作ったらいいと思います。給食放送や児童集会で、宣伝したらいいと思います。</p> <p>自分たちが作った〇〇が玄関に置かれているのを見て、とてもうれしかったです。たくさんの方が読んでくれていました。</p> <p>学校みんなが喜んでくれたのでうれしかったです。</p> <p>参観日の発表に向けて、一生懸命練習したいと思います。</p> <p>次は、～の人たちに聞いてもらいたいです。また、企画したいと思いました。</p>
<p>自分たちが学習した成果を教室以外の人に知ってもらったり、学校みんなに役立ててもらえるようなものを作ったりすることは、見童の自己有用感や学習意欲を高めることにつながります。また、外部に出すものとして成果物を作成するため、見童は、一つ一つの取組を丁寧に行うようになります。</p> <p>単元の終わりに、相手意識をもった活動を取り入れるように授業展開を少し工夫するだけで、単元全体の取組が充実したものになります。</p>		

あこがれの人(偉人)の生き方を知る活動 自分の生き方を見つめる機会を増やす

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き(例)
<p>見童が、自己の将来像をイメージするとき、憧れている身近な人や有名人、偉人や小説の主人公など、様々な人の生き方や考え方にふれるように授業展開を工夫することで、見童のよりよいキャリア形成をうながすことができます。</p> <p>「〇〇さんのような生き方ってすごいな。」と思えるように、提示の仕方を工夫しましょう。様々なメディアや書籍を活用して、偏りなく幅広い出会いができるように、人選や提示の仕方には配慮が必要です。</p> <p>身近な人、地域の人から直接話を聞いて、その人の生き方や考え方にふれるということも、大変貴重な体験となります。</p>	 	<p>〇〇の生き方は、～というところがすごくかっこいいと思いました。なので、～。</p> <p>自分もいつか、～のような生き方ができるようになりたいです。</p> <p>宮沢賢治の生き方や考え方を知って、～というところに感動しました。</p> <p>〇〇さんの話を聞いて、「すごいな。」と感ずることがいっぱいありました。例えば～。</p>

「自分を知り、律する力(自己理解・自己管理能力)」 を育てる学習活動・授業展開の工夫



じぶんと考えたのと、友だちのところが、たの で、友だちのほうか、 やりやすか。たの でこ れから、友だちのを聞 いて、いろいろな、ほ うほうで、やりたいで す。聞き方ができたの で、うれしか。たです。 またやりたいなと思っ ました。また、友だち のとくらへて、どんど んおんきょうしたい です。

学習の目標	学習の目標	学習の目標	学習の目標
この算数の問題を 「ならび」という考え、平均の考えを つかう。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。
この算数の問題を 「ならび」という考え、平均の考えを つかう。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。
この算数の問題を 「ならび」という考え、平均の考えを つかう。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。	この算数の問題に 関する、みんなの 考えを、みんなと 共有したい。



授業に取り入れる際の指導のポイント (留意点)

- 自己を客観的にとらえることの大切さに気付くようにする。
- できたこと、できなかったことを的確にとらえるように具体的に記述させる。
- 相談活動を取り入れ、他者から見た自分の行動や姿をとらえるようにする。
- よい感想を学級全体に紹介するなどして、感想を記述する際の観点を提示する。

振り返り活動の充実 I

振り返り活動を授業に取り入れる際に

指導のポイント

振り返り活動を充実させることにより、児童は、「授業を通しての気づきや学び」「自己の成長や困り」を客観的にとらえることができるようになります。そのことは、児童の、自己理解・自己管理能力の基礎を培うことにつながります。

授業時間内で、無理なく振り返り活動に取り組めるよう、方法を工夫しましょう。活動の手順や方法を明示するとともに、振り返り活動の意義や目的を児童に理解させることが重要です。また、指導者が毎時間の振り返りに目を通すことが大切です。そして、よい振り返りをしている児童の記述内容をどんどん学級全体で紹介するとよいでしょう。それを聞いて児童は、「こういう風に振り返りをすればいいんだな。」と理解し、少しずつ書く内容を深化させていきます。更に、紹介された児童にとっては喜びになります。

取り組む方法としては、「振り返りカード」に記述する方法と、「ノート（ワークシート）」に記述する方法が考えられます。それぞれの特徴を以下にまとめました。

「振り返りカード」の活用

ノートとは別の紙に記述するため、回収、保存がしやすい。また、自分の変容（成長）がひとめでとらえることが可能な様式のため、単元を通して振り返り、自己を客観的にとらえることに適している。ただ、作成にかかる指導者の負担が大きいことや、単元の進め方に変更を加えづらくなるという面がある。（右上に、実践で活用した様式を例示する。）

「ノート」の活用

授業内容と並列して振り返りを記述するため、指導者が目を通すときに、児童の学習理解を同時に確認することができる。ただ、毎時間ノートを回収する必要性が生まれることや、ノートが変わったときに、過去の振り返りを見返すことが

振り返りカードの様式例（横書き・縦書き）

できなくなってしまうという面がある。
 (右にノートを活用した振り返りの様式例を例示する。)

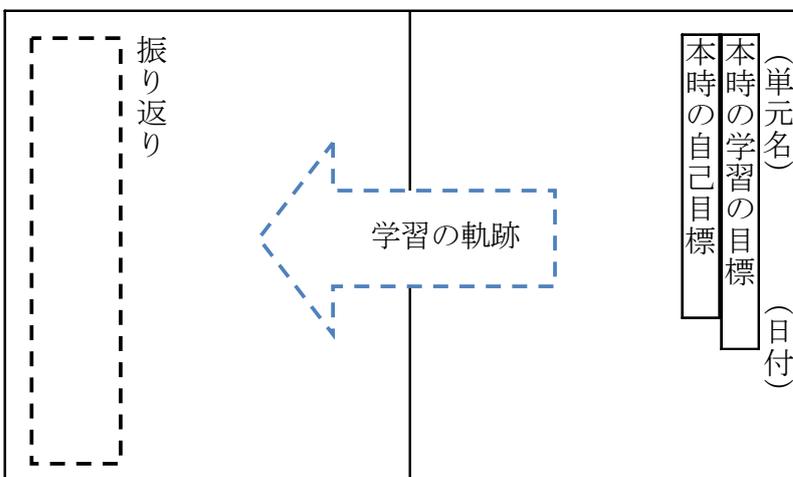
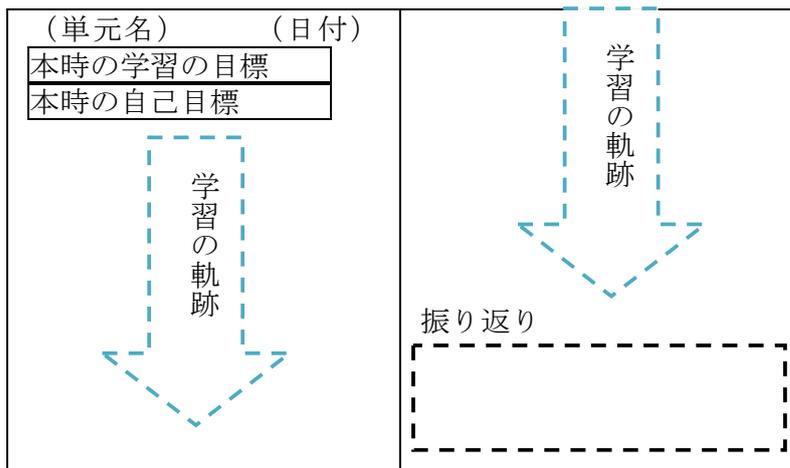
「ワークシート」の活用

学級で普段から活用しているワークシートに、**本時の学習目標**・**本時の自己目標**・**振り返り**を書く欄を設けることで、ワークシートでも振り返り活動が可能となる。ノートに比べ、回収が楽であるとともに学習内容の理解もしやすい。ただ、バインダー等で保存する際に煩雑になったり紛失したりすることが考えられる。

振り返り活動は、取組を継続させていくことが重要です。指導者自身の負担をできるだけ小さくし、児童にとっても取り組みやすい方法で実践することが、長期間継続できるようにするための秘訣といえます。そして、何より「振り返り活動が、自分の成長につながる。」という思いを児童がもつように、日ごろから、「何のために振り返りを行うのか。」ということを繰り返し伝えましょう。

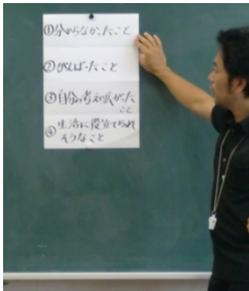
ノートを活用した様式例

(横書きノート例)



(縦書きノート例)

振り返り活動の充実Ⅱ 振り返りの観点について

指導のポイント	実際授業で示した観点の事例 (2年, 4年, 6年)
<p>振り返り活動をさせるとき、児童に、どのような観点で自己を振り返るのかということを示すことが大切です。例として下のような観点を示します。</p> <p>観点1: 学習の目標 (教科の目標) に対してどうであったか 観点2: その時間の成長 (できたこと・わかったこと) 観点3: その時間の困り (できなかったこと・わからなかったこと) 観点4: 学習と生活, 自分と友だちとのつながりについて気付いたこと</p> <p>全ての観点について振り返るというわけではなく、児童の実態, 教科等の特性, その時間の学習内容に合わせて、観点を絞ったり児童に選択させたりしましょう。</p>	<p>2年生の振り返りの観点例</p> <p>(授業の理解度を, ◎・○・△で評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学習したこと ・(自分のめあてについて) できたこと できなかったこと ・がんばったこと ・次の時間にがんばりたいこと <p>4年生の振り返りの観点例</p> <p>(授業の理解度を◎・○・△で評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・◎・○・△を付けた理由 ・がんばったこと できたこと ・気付いた友だちとのつながり ・次の時間にがんばりたいこと <p>6年生の振り返りの観点例</p> <p>(授業の理解度を, ○, △, ×で評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・◎・○・△を付けた理由 ・授業でがんばったこと ・自分の考えが広がったこと ・これからの生活や学習に生かせそうなこと 

振り返り活動の充実Ⅲ

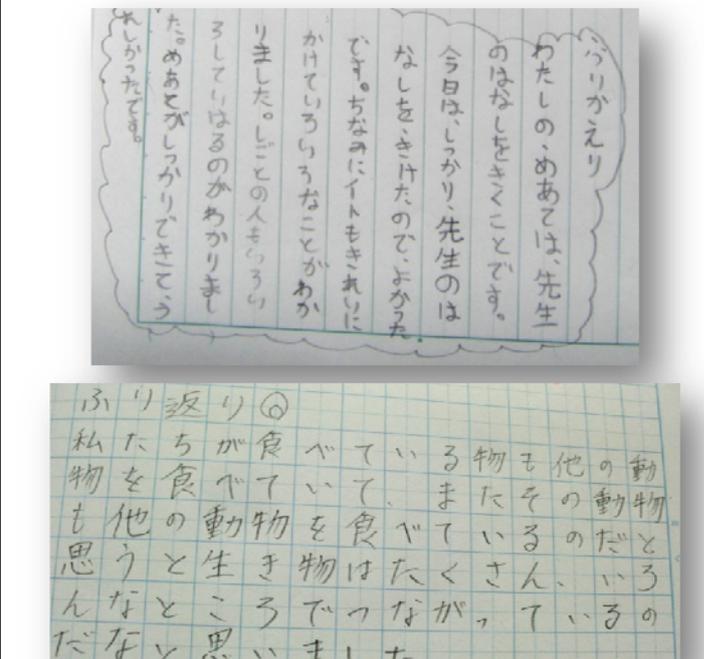
振り返りの生かし方

指導のポイント	実際授業で紹介した振り返りの記述とそのねらい
<p>実践授業では、授業のはじめに、数人の児童の振り返りを全体で紹介しました。このように授業展開を工夫することで、児童に、振り返り活動の意義や目的が明確に示されることとなります。実際に授業の中で紹介した振り返りの記述と、それを紹介した指導者側のねらいを右に紹介します。</p> <p>紹介する振り返りの内容を、指導者が意図的に選択することで、振り返り活動を有効に活用することができるようになります。</p> <p>学習理解を深めるため、新たな気付きや自己実現をうながすため、学習意欲を高めるためというように、振り返り活動をどんどん生かしましょう。</p> <p>また、振り返りの内容の記録を残しておくことで、児童の学習理解の状況把握やキャリア発達の評価、通知票の所見の記述や保護者懇談会の資料にも生かすことができます。</p>	<p>〇〇さんの説明はとてもわかりやすかったです。次は、〇〇さんみたいです。</p> <p>人間関係形成・社会形成能力を育成する視点から、友だちとのつながりを大切にしながら学習していることのよさを広めることができるようにする。</p> <p>グループで協力して実験の準備ができてよかったです。</p> <p>自己理解・自己管理能力を育成する視点から、自己を客観的に振り返り、課題を的確にとらえられていることの大切さを伝えることができるようにする。</p> <p>〇ページの問題がわからなかったので、次の時間までにわかるようになります。</p> <p>課題対応能力を育成する視点から、課題を発見し、意欲的に取り組もうとする姿を紹介することができるようにする。</p> <p>自分の目標は～だったけど、～だったので、次は～したいです。</p> <p>キャリアプランニング能力を育成する視点から、自己の成長への気付きを伝えることができるようにする。</p> <p>今まで環境問題なんて自分と関係あると思っていなかったけど、今日の学習をして、～が大切だと気付くことができました。</p> <p>前は～がどうしてもできなかったけど、今は～。</p> <p>これからは、～したいです。</p>

相談活動の充実 児童のキャリア発達をうながす支援者としての役割

指導のポイント	相談活動をしている様子
<p>自己を客観的にとらえる際、相談者を通して自己の姿を知るために、「相談活動」を取り入れることが大切です。相談者は、友だち、先生、保護者、ゲストティーチャーなど、場合に合わせて柔軟に設定するようにしましょう。</p>	

感想文を書く取組 自己理解の視点から、感想をもたせる

指導のポイント	児童の授業後の感想
<p>普段の授業でも、「感想や考えを交流する」という活動を授業に取り入れていると思います。「感想をもつ」「自分の考えをもつ」というのは、自分が感じていることや考えていることを言葉で表現することを意味しています。</p> <p>このような「思いの言語化」は、自己理解を深める上で欠かせない能力です。様々な学習場面で感想や考えを記述・交流する活動を取り入れましょう。そうすることで、自己理解能力の基礎を培うことが可能となります。</p> <p>また、振り返り活動を普段から実践していれば、自分の思いを毎時間言語化する経験を積むことにつながるため、児童の自己理解を深めることにつながります。「活動する」→「感想をもつ」→「記述・交流する」というように、授業展開を工夫するようにしましょう。</p>	

課題を見つけ、解決する力(課題対応能力)を育てる学習活動・授業展開の工夫



授業に取り入れる際の指導のポイント (留意点)

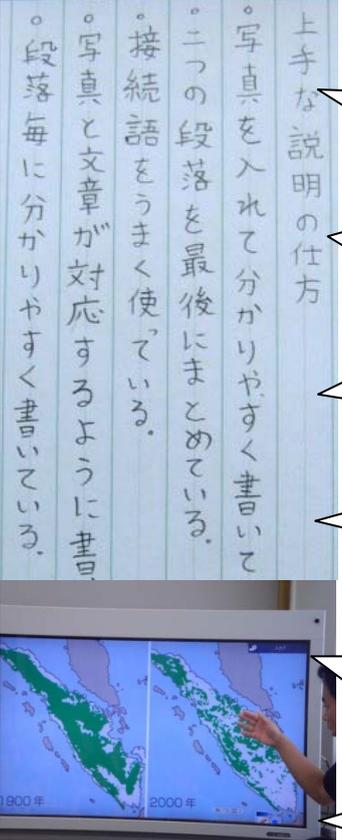
- よい考えや解決方法を、次に生かすようにうながす。
- 既存の知識や既習内容が、本時の課題解決に行かせることの面白さや喜びに気付くようにする。
- 今している学習が、実生活、実社会に役立っていることを実感させる。
- 様々な立場に立って、物事を考えるようにする。
- 様々な課題を、自分に深く関係していることとしてとらえるようにする。

学習と実生活・実社会とをつなげるⅠ 授業の導入で、本時の学習と関わりのある事例を取り上げて話す

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き (例)
<p>その時間の学習課題を、実生活・実社会に結び付けて提示することは、児童が問題場面をイメージする際の支援になります。また、身近な生活場面から課題を見付け出す課題発見能力の育成にも効果的に働きます。</p> <p>算数の文章題を提示する前には、その問題場面に関係する資料(絵・写真画像・映像)を提示することと効果的です(右写真)。また、多くの児童が経験していることや身近なこと、社会的な話題などを取り上げて、今から取り組む課題との結びつきを簡単に示し、児童がスムーズに学習に向かえるようにしましょう。</p>		<p>あつ、このお店に行ったことがあるよ。学校のすぐ前のお店だ。</p> <p>駐車場のイメージをもちながら、問題を解くことができました。</p> <p>空気を閉じ込めた袋に座れました。クッションみたいにふわふわでした。浮き輪やタイヤも、空気を入れることに気がきました。他にも身の回りには空気の性質を利用した道具があるかもしれないので探してみたいです。</p>

学習と実生活・実社会とをつなげるⅡ

学習する意義を明らかにする

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き (例)
<p>「何のために、この学習をしているのか」ということを理解した上で学習に取り組むのとそうしないのでは、児童の学習意欲や学習態度、内容理解に大きな違いが生まれると思います。</p> <p>指導者は、教材研究を深める中で、「この学習を通して学んだことは、実生活・実社会にどのように生かすことができるか。」「子どもたちは、なぜ、今この学習をする必要があるのか。」など、「学習する意義や目的」を明確に知っておく必要があるでしょう。その上で指導に当たることにより、授業の折々で、「この学習は大切なのだ。」ということ、児童に伝えることが可能になります。</p> <p>「しなくてはいけないことだからする」という受け身の学習から、「社会に出たときに役立つからする」「この学習は～に生かすことができるからする」という目的意識をもった主体的な学習へと、児童の学習に対する意識を変えていくことが大切です。</p>		<p>「〇〇」の勉強で見つけた筆者の上手な説明の仕方は、次のリーフレットを作るときに参考にしたいです。</p> <p>説明文を書くときには、写真を入れたり、～を工夫したりするとわかりやすいものになることがわかりました。</p> <p>勉強したことは、生活の中でも役立つことがわかりました。今度、～するときは～してみようと思いました。</p> <p>今している勉強は、社会に出たときにも役立つと思いました。</p> <p>〇〇の学習をして、環境問題と自分とのつながりを知りました。これからは、自分ができることを考えて行動したいと思います。例えば～。</p> <p>今まで自分とは無関係の話だと思っていたことが、実は自分と深い関わりがあったことがわかりました。</p>

学習と実生活・実社会とをつなげるⅢ

学習したことを生かして何ができるかを考えさせる

指導のポイント	児童の感想や気付き
<p>単元の終わりには、「この単位を通して学んだことは、これからの自分の学習や生活にどのように生かせようですか。」ということを探ね、いつも考えることができるようにしましょう。</p> <p>何度も繰り返し尋ねるうちに、児童自らそのことを考えながら学習に取り組むようになると</p>	<p>～ができるようになると、将来、知らない人から話を聞いたり情報を集めたりするときに役立つと思います。</p> <p>計画を立てて、その通りに学習を進めることは、会社で期限を守らなくてはならないときとかの練習になると思います。</p> <p>～の計算をできるようになると、お店とか行ったときにすぐに値段を計算できるようになるから大切だと思います。</p>

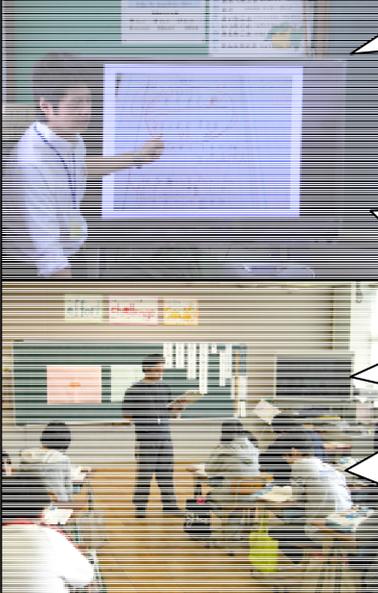
考えます。そのことにより、学習する意義を実感させることにつながり、学習意欲の高まりが期待できます。

右に示したような児童の感想を全体に知らせることで、学習を生かそうとする視点をもつことの重要性を、全体に広めましょう。

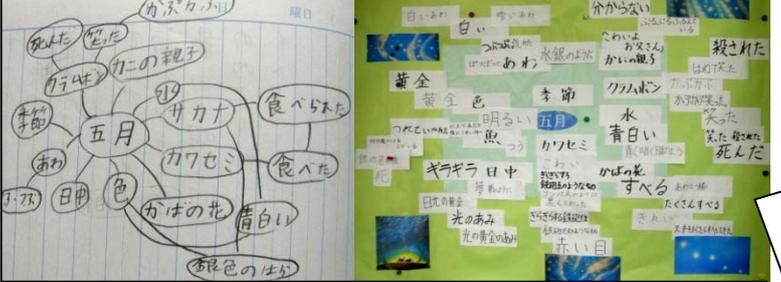
敬語を話せることは、社会に出たときに大切なことがわかったので、これからの勉強をがんばっていきたいです。

今まで新聞とかにグラフが載っていても読まなかったけど、グラフの読み方を勉強して読めるようになったので、これからは読むようにしたいです。

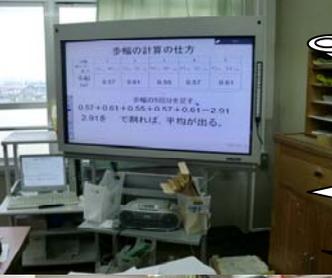
友だちの意見を自分の考えに取り入れる様々な工夫Ⅰ ノートの内容を紹介する

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き (例)
<p>課題解決に向かう際、友だちの様々な意見を自分の考えに取り入れ、活用するようにながしましょう。</p> <p>児童が友だちの様々な意見にふれることができるように、話し合い活動やグループ活動を積極的に取り入れます。また、授業のはじめに児童のノートの記述を紹介することで、効果的な復習や既習事項の確認ができるようになります。そのことは、本時の課題に向かう足場としても機能します。</p> <p>右上の写真のように、ノートを大型テレビで映して紹介する方法もあります。また、右下の写真のように、よい感想や考え方をメモしておいて、読み上げる方法も有効です。</p>		<p>〇〇さんの考え方はすごいなあと思いました。私もまねして解いてみたいです。</p> <p>同じ答えになっても、いろいろな解き方があることがわかりました。自分もいろいろと工夫してみたいです。</p> <p>〇〇さんの「～」という考え方には賛成です。でも、自分は「～」ということも考えられると思いました。</p> <p>自分と同じ意見や違う意見を聞くことができよかったです。〇〇さんの考え方は、とても深い考え方だと思います。僕は思いつかなかったので～。</p>

友だちの意見を自分の考えに取り入れる様々な工夫Ⅱ ウェビングマップの活用

指導のポイント	作成したウェビングマップ
<p>ウェビングマップとは、ある事柄について様々に出された意見や情報をつなぎ合わせて作成するマップのことです。イメージを広げる、意見を集約する、課題解決に役立てるなど、様々な活用の仕方があります。</p> <p>この活動を生き方探究教育の視点でとらえると、友だちの様々な意見にふれて自分の考えを広げたり深めたりするとき、様々な情報をつなげて新しい意味を見出すとき、マップを眺めながら全体のイメージをとらえるときなどに有効といえます。課題解決方法の一つとして指導することで、課題解決能力の基礎を培うことにもなります。</p> <p>右の写真は、6年生国語科の「やまなし」の学習で作成したウェビングマップです。左上が個人で作成したもの。右上は、グループでの話し合い活動を経て、最終的に学級で作成したものです。ここでは、右のような手順でウェビングマップを作成しました。「五月」と「十二月」のウェビングマップを見比べることで、物語全体をとらえることができていました。</p>	<p>作成したウェビングマップ</p>  <p>ウェビングマップ作成の手順</p>  <p>キーワードの提示</p> <p>クラスでの交流</p> <p>個別のマップ作り</p> <p>グループ内の交流</p>

ICT機器の活用 情報を活用して問題解決をめざすようにする

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き (例)
<p>ICT 機器を活用した情報収集・情報処理・情報発信の方法を習得することは、課題対応能力の基礎を培います。その際、「情報の出所を明らかにする」「写真を撮るときは了解を得る」「発信するときはプライバシーや内容に配慮する」など、情報モラルの重要性を指導することが重要です。</p> <p>指導者自身が、積極的に ICT 機器を授業で活用することも大切なことです。教材を提示するとき、学習を記録するとき、指導者が ICT 機器を活用している姿を見ることで、児童の関心が高まります。また、児童の学習理解を深めたり学習意欲が高まったりすることが望めます。</p>	 	<p>アニメーションの動きがあるから、説明がわかりやすいな。</p> <p>説明がよくわかりました。これからの活動が楽しみです。</p> <p>〇〇さんの意見がとてもわかりやすかったです。私も、あんな風に発表してみたいです。</p> <p>僕はカメラ係なので、アップとルーズの画像が撮れるように工夫したいです。</p> <p>撮影するときには、相手の許可がいることを初めて知りました。</p>

既習事項を活用する 習得したことを生かして、課題に向かわせる

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き (例)
<p>以前 (前時) に習得した方法や考え方を活用して、本時の課題に向かうことの大切さを児童に伝えましょう。</p> <p>授業のはじめには、今まで習得した方法や考え方を、掲示物・ノートの記事・教科書・プリントなどを通して振り返るようにします。また、課題解決の場面で、既習事項を生かして解決した児童がいれば、そのことを取り上げほめることも大切です。そうすることで、児童は、「今している学習内容が、他の学習内容とつながりがある」ことに気付くことができるようになります。そのことは、課題対応能力の基礎を培うことにつながります。</p>	 	<p>〇〇の考え方は、こうなっていたな。今日の学習に使えるうた。</p> <p>前の時間に使った〇〇の方法で解くことができると思います。</p> <p>前の時間に〇〇さんがやっていた方法で今日はやりたいと思います。</p> <p>～で学んだことが生かせそうです。</p> <p>前に勉強したことと似ているところがあって、応用できると思いました。</p>

課題と向き合う 課題に対して、自分のこととして考えるようにする

指導のポイント	実践の様子	児童の気付き (例)
<p>児童にとって、社会的な問題 (環境問題、紛争など) は、メディアを通して耳にはしていても、自分のこととして考えるという機会はあまりないかもしれません。</p> <p>規模の大きな問題であっても、当事者意識をもって主体的に課題をとらえることができるように、課題の提示の仕方、授業展開に工夫を加えましょう。</p> <p>また、友だちの悲しみや不安を自分のこととしてとらえ、相手の身になって考えるという態度も養いたいものです。これらのことは、課題対応能力の基礎を培うことにつながります。</p>	 	<p>生態系の破壊って、深刻な問題だし、自分との関係も深いんだな。</p> <p>自分はこれから、～していきたいと思いました。</p> <p>〇〇さんの思いは、僕も共感できるし、自分も～だと思いました。</p> <p>～について、自分のこととして考えることができました。これから、～があったときには、～していくようにしたいです。</p>

夢や希望をつくりあげる力(キャリアプランニング能力)を育てる学習活動・授業展開の工夫



共六角
五月
カニの兄弟・父さんカニ・魚・カワセミ
二つの場面の共通点とちがう点を見つけよう。
④やまなしの五月と十二月の場面や情景・色・光の表現を見つけよう。

観察結果をまとめ予想と比べて
しながら考察しよう。
自分のめあて
比べることをできるだけたくさん
つくり、考察しやすくする。
結果
写真のときと
食べたい



授業に取り入れる際の指導のポイント (留意点)

- 先を見通して、主体的に学ぶことの大切さを伝える。
- どのような自分(社会人)になりたいかということを普段から考えるようにする。
- その時間の学習目標を意識しながら学習に向かうようにする。
- 時間感覚を身に付けるようにする。
- ポートフォリオ、ノート、ワークシートなどを活用し、児童の変容がとらえやすい工夫をする。
- 今の努力の積み重ねが、自分の成長や将来像とつながっていることに気付くようにする。

学習計画を立てる

児童の主体的な学習をめざす

指導のポイント

単元のはじめには、先を見通した学習計画を児童とともに立てることが大切です。作成したものは、右の写真のように教室に掲示し、いつでも見ることができるようにしましょう。

自分たちが、今、単元の何時間目の学習をしているのか、単元の目標に向かっての進捗状況はどうかなど、計画して物事に取り組むことの大切さを学ぶことができると同時に、児童が、主体的に学習に向かうようにするための有効な手段となります。

実際に活用した学習計画表と、児童の気付き

毎時間の目標を立てる

学習目標と自己目標を考えるようにする

指導のポイント

毎時間の授業のはじめには、その時間の学習目標（教科目標）を児童に示すようにします。それを基に、児童は、自己目標（その時間にがんばりたいこと）をノートに記すようにします。そうすることで、その時間の学習の目的が明らかになり、児童の学習意欲の高まりが期待できます。

自己目標は、毎時間数人の児童に発表させるようにします。そうすることでお互いが刺激され、学習集団としての雰囲気が高まると考えられます。また、授業の最後には、必ず学習目標と自己目標に対しての振り返りをします。

めあてを作成する際には、観点を児童に示すようにします。低学年ほど、「行動目標」（手を挙げて1回発表する。話をきちんと聞く。など）が目標となる場合が多いです。高学年になると、「学習内容に即した目標」（線分図を使ってわかりやすく説明したい。など）の目標設定が可能となってきます。

次のページに示した（一時間ごとの）学習指導案には、その時間のはじめに自己目標を立てる活動が記されています。また、自己目標の観点も例示されています。観点例を参考にして、学級の実態にあっためあてを考えて実践しましょう。

目標設定を授業に取り入れた学級の児童からは、右のような声を聞くことができました。自ら目標を立て、その目標に向かって努力することで、学習意欲の高まりにつながったことがわかります。

実際の板書とノートの様子

本時の学習目標

・目標を立てることで、その目標に向かって学習することができました。

・目標に沿ってやっていくことは、とても計画的で、理科だけではなく、他の学習や生活の中でも、「計画的」というのは大事だと思います。

・めあてを書いたり、振り返りをしたりすることで、その授業がよりわかりやすく、よりしっかりとできたと思います。

・自分で目標を立て、自分で考えられるということができるようになるとと思います。

学習指導案に、「目標設定の場面」を取り入れた表記例

学習指導案 第4年 国語科 単元名「説明のしかたについて考えよう」 教材名「アップとルーズで伝える」 単元名「写真と文章で説明しよう」 教材名「『仕事リーフレット』を作ろう」 読むこと8 書くこと7 (1時間目/全15時間)			
本時の目標 ○学習計画を立てることを通して、「仕事リーフレット」の作成に興味をもって取り組んでいる。 <関心・意欲・態度> →キャリアプランニング能力			
本時の展開			
学習のめあて		計画を立てよう	
学習展開	学習活動	*支援 相相談	法)
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 今日から始まる学習 今日から、「仕事」について勉強をします。 本時の学習のめあてを知る。 今日は、これからの授業で、どのような学習をするのかを知って、計画を立てます。 自己目標を設定する。 今日、自分ががんばりたいことをノートに書きましよう。 自己目標を発表する。 単元の学習内容を知る。 	指導者と相談して、本時 けてがんばりたいことを決定する。 *がんばることを発表することで、目的を意識することができるようにする。 (自己目標の観点例) ・「学習のめあて」に対してがんばりたいこと ・発表のこと ・聞くこと ・書くこと ・そのほか	目標設定の観点は、学級の実態に合わせて示すようにします。 ※自己目標の観点を示したもの
	課題解決(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> 仕事について考える。 今からグループになって、思いつく仕事を紙に書いてください。 グループの中で、「書く人」「貼りに来る人」を決める。 「書く人」が、グループの中で出た仕事を付箋紙に書いていく。 「貼りに来る人」が、付箋紙を貼りに行く。 興味のある仕事について交流する。 興味のある仕事について、調べたことをリーフレット 	*グループでウェビングマップを作成することで、様々な仕事について考えることができるようにする。 *役割分担をさせる。

学習が“将来”につながっていることを知る 学習を、職業や仕事に関連付けるようにする

指導のポイント	児童の感想や気付き
<p>「今している学習」が将来の自分の理想像、職業、これからの生き方と深く関連していることを示すことで、児童のキャリア発達を支援することができます。</p> <p>年度当初に生き方探究教育の年間の単元計画を立てましょう。その際、生き方探究教育を重点的に取り入れて実践できる単元をあらかじめピックアップしておくことが大切です。</p> <p>参考資料として、次のページ(p.19)に『生き方探究教育パッケージプログラム(例)』を紹介しています。4年生以上の全ての教科等から、生き方探究教育と関連の深い学習内容の一部を取り上げて例示し、更に、「京都まなびの街 生き方探究館」で行われている事業と関連している教科等の取組を関連付けて示しています。(この資料は、京都市総合教育センターのWebサイトからダウンロードできます。)</p> <p>下の写真は、4年生国語科教材『仕事リーフレット』を作ろうの学習で、仕事インタビュー活動に取り組む児童の様子と、児童が作成した「仕事リーフレット」の実物です。生き方探究教育と関連の深い単元に重点的に取り組むことで、内容の充実した教育活動が期待できます。</p>	



(参考資料) 生き方探究教育パッケージプログラム(例) - 【人とともに社会を生きる力】

(平成22年2月 京都市総合教育センター研究課 研究発表会資料 より抜粋)

【人とともに社会を生きる力】生き方探究教育パッケージプログラム(例)				生き方探究教育パッケージプログラムを支える日常活動
○教科等の目標 ◆①人間関係形成能力 ◆②社会参画能力				
	教科(国語・社会・算数・理科・生活・音楽・図画工作・家庭・体育)	領域(道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動)	生き方探究館などにおける体験的な学習	
小学校 第4学年	<p><4~7月/社会> 「住みよいくらしをささえる」(23) ○地域の人の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、これらと自分たちの生活や産業との関わっていることを調べ、これらの対策や事業は地域の人の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考え、表現する。 ◆②住んでいる地域の様々な様子を実際に見たり聞いたりして調べる。 ◆①自分の生活を支えている人に感謝の気持ちをもつ。</p>	<p><5月/道徳> 「郷土を愛する心:伏見人形」4-(5) ○郷土の伝統や文化を大切に、郷土を愛する心情を育てる。 ◆②住んでいる地域の様々な工業や産業の様子を実際に見たり聞いたりし、地域に愛着をもつ。</p>	<p><総合的な学習の時間など> 「京都モノづくりの殿堂・工房学習」(6) ○京都では、優れたモノづくりや伝統を受け継いだ工業が盛んであることを理解するとともに、日本のモノづくりをリードする京都の先端産業や先端科学に関心をもつ。 ○モノづくり企業創業者の生き方やモノづくりに携わる人のモノづくりへの情熱に触れることを通して、自身の将来や夢について考えを深め、その実現に向けて意欲をもつ。</p> <p>◆②京都の優れたモノづくりや伝統を受け継いだ工業が、自分たちの生活と深い関わりがあることを知る。 ◆①工房学習を通して、友だちが作った作品の良さや工夫を認める。</p>	<p>(低学年) * あいさつや返事をする。 * 「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 * 人の話をしっかり聞く。</p>
	<p><9~10月/音楽> 「かけ合いや重なりのおもしろさを味わおう(アンサンブルの楽しさ)」(4) ○かけ合いや音の重なりを面白さを感じとり、互いの音を聴き合いながら曲想を生かして演奏する。 ◆①お互いの良さを認め、協力して学習に取り組む。</p>	<p><6月/道徳> 「働くってすばらしい:おたまじゃくしの世話」4-(2) ○力を合わせて働くことの大切さを理解し、進んでみんなのために働くこうとする態度を養う。 ◆②身近な集団の中でできることを考え、行動する。</p>	<p><総合的な学習の時間など> 「スチューデントシティ学習」(18) ○日常生活に関わる経済の働きや社会との関わりを理解する。 ○望ましい勤労観・職業観を育て、自らの生き方を考えるようにする。</p> <p>◆②身近な消費生活を中心に、経済のしくみを知る。 ◆②所属する集団のためにできることや役割を考え、行動する。 ◆①相手の立場に立って考え、行動する。</p>	<p>(中学年) * 友だちの良いところを認め、励まし合う。 * 友だちの気持ちや考えを理解しようとする。</p>
	<p><1~3月/社会> 「わたしたちの京都府」(28) ○府の様子について、人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかわりを、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、府の特色を考え、表現する。 ◆②京都の伝統産業や先端産業、先端科学について調べ、体験する。</p>	<p><12月/道徳> 「郷土を愛する心:疏水をひらく」4-(5) ○郷土の先人の心にふれ、郷土の文化や伝統を大切に、郷土を愛する心情を育てる。 ◆②住んでいる地域の様々な工業や産業の様子を実際に見たり聞いたりし、地域に愛着をもつ。</p>	<p><4月/外国語活動> ※第6学年も同じ ○外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。 ◆①外国語を注意深く聞いて、相手の思いを理解しようとし、積極的に自分の思いを伝えたりする。</p>	<p>(高学年) * 根拠を明確にして、自分の考えを話す。 * 思いやりの気持ちをもち、相手の立場に立って考え、行動しようとする。</p>
小学校 第5学年	<p><4月/国語> 「人物のかかわり合いを読み、感想を書こう:のどがかわいた」(3) ○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるようにする。 ◆①人との関わり合いについて考える。 ◆①相手や場面に応じて、会話したり行動したりする。</p>	<p><8・9月/特別活動(学級活動)> 「社会で働くこと」 ◆①相手の立場に立って考え、行動する。 ◆②社会のためにできることや役割を考え、行動する。</p>	<p><2月/国語> 「理由を明確にして、すいせんしたり、それを聞いたりしよう:すいせんします」(6) ○目的や意図に応じた話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いができるようにする。 ◆①自分と異なる考えを理解する。</p>	<p><10月/国語> 「生活の中の敬語(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)」(2) ○日常生活での自分の言葉を振り返り、正しい敬語の使い方に慣れることができるようにする。 ◆①時と場、相手に応じた正しい言葉遣いをする。</p>
	<p><10~12月/社会> 「わたしたちの生活と工業生産」(24) ○我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、表現する。 ◆②地域の産業への関心をもち、経済のしくみを知る。</p>	<p><10月/道徳> 「社会のルールを守る:何気なくしていること」4-(1) ○社会のルールやマナーを守ろうとする判断力を養う。 ◆②公共のために自分にできることを考え、行動する。</p>	<p><6月/特別活動(学級活動)> 「仲間づくり」 ◆①自分と異なる考えを理解し、よりよい仲間づくりをする。</p>	
小学校 第6学年	<p><10月/国語> 「生活の中の敬語(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)」(2) ○日常生活での自分の言葉を振り返り、正しい敬語の使い方に慣れることができるようにする。 ◆①時と場、相手に応じた正しい言葉遣いをする。</p>	<p><10月/道徳> 「郷土を守る:羽東師川」4-(7) ○郷土を守る先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。 ◆②地域の伝統を知り、産業への関心をもつ。</p>		
	<p><12~1月/社会> 「私たちの生活と政治」(12) ○政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考えるようにする。 ◆②所属する集団や公共のために自分ができることを考え、行動する。 ◆②身近な消費生活を中心に、経済のしくみを知る。</p>			

「パッケージプログラム」というのは、生き方探究教育に関わる学習単元を抽出し、「育てたい力」ごとに作成した学習プログラムのことです。「各教科」「領域」「体験的な学習」を、生き方探究教育の視点で横断的に関連付けています。(詳しくは <http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/kenkyu/outlines/h22/seika/kono/index.html> を参照のこと) ここでは、「人とともに社会で生きる力」に関するパッケージプログラムを例示します。

学習モデル（指導計画案・学習指導案） の様式例

ここでは、学習モデル（指導計画案・学習指導案）の様式例を紹介します。第一部で示した生き方探究教育の視点を踏まえた様々な「学習活動・授業展開の工夫」を、どのように授業の中に取り入れ、実践していくのか。その実践例として活用していただければと思います。

また、24 ページ以降に掲載している 3 教科の学習モデルにおける「指導計画案」については、「京都市スタンダード指導計画 国語編」（同様に「算数編」「理科編」）を参照し、本時の「学習指導案」はその「指導計画案」を基に作成しました。

尚、指導要領改訂による教科書の変更のために、既に削除された単元、教材の内容も含まれていますが、実践例の一つとして掲載しています。御了承ください。

生き方探究教育の視点を踏まえた「指導計画案」の様式例

単元	8 計算の じゅんじょ (4時間) 9月下旬	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ () を含む式を正しく計算したり, >, <, = を使って式に表したりすることができるようにする。 ・ <u>加法の結合法則, 及び () や >, <, = の意味と使い方を理解できるようにする。</u> 	
単元目標と生き方探究教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> ※相手意識をもって問題集づくりに取り組んだり, ペアやグループの中で考えを出し合うことで, 訂正したり考えを変えたりする。(人間関係形成・社会形成能力) ※学習内容や自分の理解に合わせた問題を作成する。(自己理解・自己管理能力) ※課題を, 生活体験に結び付けて考えたり, 既習事項を活用しながら考えたりする。(課題対応能力) ※<u>振り返り活動を通して, 自己の成長をとらえるとともに, 次時のめあてを立てる。(キャリアプランニング能力)</u> 	
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての技能 ・計算の順序を考えて () を含む式を正しく計算したり, >, <, = を使って数量の大小関係を式に表したりすることができる。 ・数量や図形についての結合法則, 及び () や >, <, = の意味と使い方を理解している。 	
時	<p>(●中心活動)</p> <p>単元目標と生き方探究教育との関連 この単元の目標と, 「4 つの力」との関連を明記した。</p>	<p>評価の視点 (評価方法) ※準備物 →評価と関連している生き方探究教育の力</p>
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ● () の意味を知り, >, <, = を使って式に表したり, プレゼンテーションソフトの動画を見せたりすることで, 題意を把握することができるようにする。 ・ P104 のあひろが池に来る場面をイメージして, 課題を把握する。 ・「じゅんに」と「まとめて」の2つの考え方を式に表す。 ・「じゅんに」と「まとめて」の考え方の式の共通点と相違点をペアで話し合う。 	<p>④数量の関係を簡潔に表し, () を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述)</p> <p>⑤ () の意味と加法に関する結合法則を理解している。(発表, ノートへの記述)</p> <p>⑥既習事項を活用して, 数量の関係を簡潔に表し, () を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ● () を使った式を立てるような問題づくりをする。 ・「みんなが解きたくなるような問題集づくりをする」という課題を知る。 ・問題をつくるときの注意点を考える。 ・つくった問題を, 友だちと話し合い, 問題文の校正を行う。 ・絵やヒントを問題文に加え, 工夫する。 	<p>この時間に取り入れた学習活動・学習展開の工夫 この力を育てるための学習活動・学習展開の工夫を評価の視点の文言に加え, 下線を引いて強調した。</p> <p>⑦問題解く人のことを考えたり, グループで問題を解き合ったりすることを通して, 問題集づくりに進んで取り組んでいる。(問題文, 問題を作成している様子)</p> <p>→人間関係形成・社会形成能力</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ● >, <, = の意味と使い方を理解し, 数量関係を式に表す。 ・ P106 ① の文房具屋で買い物をする場面をイメージして, 課題を把握する。 ・150 円で消しゴムと鉛筆が買えるか買えないかを考える。 ・自分の考えをペアで話し合う。 ・買える場合と買えない場合の, 数と式の大小関係を明らかにする。 ・ >, <, = の意味と使い方を理解する。 ・ >, <, = を使って式に表す。 	<p>この時間に意識して育てたい力 この時間に, 授業を通して育てたい力を, 評価の視点の下に明記した。</p> <p>⑧買い物遊びのための具体物</p> <p>⑨買い物遊びをペアで取り組み, >, <, = の意味と使い方を理解している。(発表, ノートへの記述)</p> <p>→人間関係形成・社会形成能力</p>

生き方探究教育の視点を踏まえた「学習指導案」の様式

学習指導案		第2学年 算数科	単元名「計算の じゅんじょ」	(3時間目/全4時間)
本時の目標				
○問題を解く人のことを考えたり、グループで問題を解き合ったりすることを通して、問題集づくりに進んで取り組んでいる。				
<関心・意欲・態度> →人間関係形成・社会形成能力				
本時の展開				
学習目標	「もんだいしゅうをつくろう」			
学習展開	学習活動 指導者の発言	*支援 ○留意点 相相談活動 算活算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物	
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 ○今まで学習してきたことを生かして、問題づくりに取り組みます。 ・自分のめあてを書く。 ・めあてを発表する。 ・問題づくりの目的を知る。 ○つくった問題は、みんなが賢くなるためとしてまとめたいと思います。 ・問題づくりの仕方を知る。 ○生活の中から、問題づくりの場面を思い起こ考えましょう。 ○問題をつくるときに、どんなことに気を付 	<ul style="list-style-type: none"> ○相指導者と相談して本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 ○*がんばることを発表することで、目的を 	<p>その時間の学習目標 (教科目標) の提示</p> <p>児童にもわかる言葉で示した。板書でも提示した。</p>	
課題解決 (グループ・クラス)	<ul style="list-style-type: none"> ○問題をつくるときの注意点を考える。 ○解けない問題はつからない。 ○数字を難しくしすぎたり、簡単にしすぎたりしない。 ○解きたくなくなるような問題集にするために、どんなことを工夫したらいいですか。 ・問題づくりの工夫を考える。 ○字を大きく丁寧に書く。 ○絵や図をかく。 ○ヒントをかく。 ○難易度をかく。 ・絵やヒントを問題文に加え、解く意欲が湧くように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合っ ○し合っ ○*難易度や内容などをよく吟味させる。 ○内容が、既習事項から逸脱しないようにする。 	<p>○問題を解く人のことを考えたり、グループで問題を解き合ったりすることを通して、問題集づくりに進んで取り組んでいる。(問題文、問題を作成している様子)</p>	
課題解決 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・つくった問題を、友だちと解き合うことで、問題文の校正を行う。 ○できた問題をグループで解き合ひましょう。解けない問題や、わかりにくい問題はありませんか? ・改善点を指摘し合い、よりよいものに仕上げる。 ・絵や図をかいたり色を塗ったりして仕上げる。 ・早く考えられた児童は、問題文を見やすくなるような工夫をしたり、まだできていない友だちの相談相手にのったりする。 ・ワークシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アイデアが出にくい場合は、グループで話し合っ 	<p>【人間関係形成・社会形成能力】問題に取り組む人が、解きたくなくなるような工夫を考える。グループでつくった問題を解き合い、指摘し合ったり、訂正を加えたりしている。</p>	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習を振り返りましょう。 ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①困り(わからなかったこと) ②がんばった・できたこと ③友だちのすごいところ ④次の時間がんばりたいこと ・ノートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○*その時間を振り返ることで、自己理解を深めることができるようにする。 ○相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時がんばりたいことを考えたりする。 		

学習目標、自己目標に対する振り返り活動
 振り返りの観点については、学級の実態に合わせて設定した。適宜、相談活動を取り入れた。

本冊子に活用した写真，イラスト等の転用，複写を禁じます。

なお，イラストについては，「スズキ教育ソフト株式会社」の「キューブきっず2 のイラスト」を，了承を得た上で使用しています。